

臨床歩行分析研究会誌 投稿・執筆規定 (2019年5月17日制定)

◇投稿規定◇

1. 投稿者の要件

本誌への投稿は臨床歩行分析研究会（以下「本研究会」）の会員・非会員を問いません。ただし、少なくとも著者の1名が本研究会の会員であることを要します。ただし、編集委員会が特に認めた場合はこの限りではありません。

2. 倫理規定

ヒトを対象とする研究（実験）はヘルシンキ宣言の趣旨に則り、動物を対象とする研究（実験）は各所属機関の規定に従い、適切に対応されている必要があります。ヘルシンキ宣言の全文について、日本医師会による和訳が下記の Web ページに記載されています。

<http://www.med.or.jp/wma/helsinki.html>

(2014年1月31日)

3. 著作権

会員の権利保護のために、掲載された原稿の著作権は本研究会に帰属するものとします。また、第三者から著作物の利用許諾の要請があった場合（インターネット上等での電子的公開を含む）は、編集委員会において審議し、適当と認めたものについて要請に応じることに同意したものとします。

他者に著作権が帰属する資料を原稿に引用する場合は、著者がその許可手続きを行ってください。

著者が著者自身の本誌に掲載された論文の全文、または一部を複製、翻案、翻訳する場合は、本研究会は異議の申し立てなどの妨げをしません。ただし、著者自身でも、掲載された論文の全文を複製の形で他の著作物に利用する場合は、本会の著作物であることを明示する必要があります。

著作権については、公益社団法人著作権情報センターのホームページをご参照ください。

<http://www.cric.or.jp/> (2014年1月31日)

4. 著者の責任

投稿した原稿については、共著者の全員が原稿の作成に関与し、内容について責任を有していることが必要です。

5. 投稿論文の内容と原稿形式

本誌へ投稿できる論文の内容は、本研究会の目的に沿ったものとします。特に臨床に関係のある論文を歓迎します。臨床における症例の動作特性、臨床で応用可能な計測方法や計測機器開発、臨床の症例データの分析方法、臨床データの基準値、対照群データの基準値、症例の治療経過や効果などを含みます。

なお、他誌にすでに掲載されたもの、掲載予定のもの、投稿中あるいは投稿予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものはご遠慮ください。

投稿の原稿形式は以下の通りです。

- 5.1 「原著」（症例研究を含む）
- 5.2 「短報」
- 5.3 「症例報告（原著，報告）」（事例報告）
- 5.4 「報告」（技術報告）
- 5.5 「総説」
- 5.6 「解説」

※症例報告には、「原著」での扱いのものと「症例報告（事例報告）」の扱いのもの2種類があります。

1 症例での報告であっても、データ表現の信頼性・妥当性に加えて、新規性（計測装置や計測方法の新改良、希少な動作データ、新仮説の提案、データ分析の改良、データの解釈等）が査読により認められる場合には、「原著」の扱いとすることがあります。

6. 原稿の構成

原稿の構成は以下の8種類です。

- ① 投稿票
- ② 表紙（原稿形式、表題・キーワードの和文・英文）
- ③ 要旨（和文・英文）
- ④ 本文

- ⑤ 参考文献
- ⑥ 図表および図表説明一覧
- ⑦ 印刷用原稿
- ⑧ 誓約書

③～⑥の原稿は査読用原稿として使用され、⑦の印刷用原稿は図表を含めて著者が希望するレイアウトに作成していただくもので、印刷編集時に使用します。

原稿構成の8種類をそれぞれ PDF 形式に変換した文書ファイルを作成してください。

投稿票、掲載用原稿、誓約書の作成・編集には、本研究会ホームページ上の投稿専用サイトから原稿フォーマット（Word 形式）をダウンロードしてご利用ください。投稿時にはいずれも PDF 形式に変換してください。

誓約書は著者全員が直筆で署名をした上で、スキャンを行い PDF 形式のファイルにしてください。

7. 原稿の投稿について

投稿希望者は、本研究会ホームページ上の投稿専用サイトから編集部へメールでお申し込みください。受付後、完了メールによって論文番号をお知らせいたします。論文番号を受領後、投稿サイトから原稿構成の8種類の PDF ファイルを投稿してください。

8. 論文の採否

投稿された論文の採否は、査読規定に従い本研究会編集委員会が決定します。場合によって著者に内容の追加あるいは短縮を求めることがあります。また、著者に承認を求めたうえで投稿の種類を変更することがあります。

9. 要旨（英文）のチェック

投稿された論文が採択された場合、要旨英文のネイティブチェックをしていただき、チェック証明書を提出していただきます。この場合、編集委員会が英文チェックの委託業者を紹介することが可能

です。英文チェックの費用は著者の自己負担となります。

10. 掲載料

投稿論文が採用された場合、掲載料 30,000 円を申し受けます。

11. 論文別刷

著者が希望すれば、掲載された論文の別刷を印刷致します。別刷料は著者の自己負担となります。

◇執筆規定◇

1. 各原稿形式の長さ

原稿は A4 縦置き白紙に横書きで執筆する。

長さは刷り上りの状態で下記のページ数を超過しないように配慮すること。刷り上り 1 ページは文字で全部を埋めた場合、1,794 字（1 行あたり 23 字 × 39 行 × 2 段）に相当する。なお、以下の原稿形式ごとの刷り上りページ数には表題、要旨、図表、参考文献などの一切を含むので、これらのスペースも考慮し、原稿を執筆すること。

- (1) 原 著： 6 ページ
- (2) 短 報： 4 ページ
- (3) 症例報告： 6 ページ
- (4) 報 告： 4 ページ
- (5) 総 説： 6 ページ
- (6) 解 説： 6 ページ

2. 原稿の各構成の執筆内容（査読用原稿）

2.1 投稿票

投稿票に所定の情報（原稿形式、表題、著者氏名、所属名、連絡先など）を記入する。（これは、編集委員会の処理として必要な書類である。）

2.2 表紙

原稿形式（原著、短報など）、表題、キーワード（5 個程度）を和文および英文のみを記載する。1 つの原稿ファイルとして作成する。

2.3 要旨

要旨は和文で 300 字程度、英文で 200 語程度にまとめる。「原著」「短報」には和文および英文の両方の要旨を、「症例報告」「報告」「総説」「解説」には和文の要旨のみを付す。1 つの原稿ファイルとして作成する。

2.4 本文

本文を記す。1 つの原稿ファイルとして作成する。

(1) 原稿の言語

和文を原則とするが、英文でもよい。以下は、日本語を用いる場合の規定であるが、英語を用いる場合もこれに準ずる。

(2) 用語・単位・記号

文章は、できる限り当用漢字・現代仮名遣いを用いる。学術用語は、文部科学省、JIS または関連学会で定めたものを用いる。それ以外のものは、慣用の学術用語および技術用語を使用する。単位は、国際単位系 (SI) による。量および単位を表す記号は、なるべく JIS で制定されたものを用い、必要があれば記号一覧表をつける。

(3) 句読点

句点は [.], 読点は [,] とし、1 コマを占める。

(4) 数式

数式は改行して 2 行取りとし、字体が明確にわかるように書く。式の右に括弧数字を振り、式 (1) などと引用する。まぎらわしい文字には、上ツキ、下ツキのように赤で字体を指定する。分数式を本文中に入れるときは、 a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように 1 行に書く。

2.5 参考文献

本文中での参考文献は、該当箇所の右肩に番号を²⁾もしくは^{1-2) 3-7)}のように記入する。参考文献の一覧は、下記の形式で本文の末尾にまとめて記載する。また、文献の一覧のカンマ、ピリオド、コロンは半角とし、後ろに半角スペースを入れる。原則として、Web ページの URL を参考文献として用いることは認めない。

参考文献記載の書式は APA (アメリカ心理学会) スタイルとする。

(1) 雑誌の場合、

—例—

- 1) 日本太郎, 東京治郎 (2012). 変形性股関節症の歩行分析. 臨床歩行分析研究会誌, 2(1), 10-15.
- 2) Nihon, T. and Tokyo, J. (2011). Biomechanics of hip joints. *Journal of Biomechanics*, 3(1), 20-25.

(2) 書籍の場合

—例—

- 3) 東京俊夫 (2001). 「歩行分析と運動制御」, 日本出版.
- 4) Tokyo, T. (2001). *Gait Analysis and motor control*, Tokyo, Nihon Press.

(3) 編著書籍の場合

—例—

- 5) 根本明宜 (2008). 歩行分析の歴史. 江原義弘, 山本澄子 (編), 「臨床歩行計測入門」 (pp. 1-6), 医歯薬出版.
- 6) Davis, R. B., and Kaufman, K. R. (2002). Kinetics of normal walking. In J. Rose & J. G. Gamble (Eds), *Human walking 3rd ed.* (pp. 53-76), Philadelphia, Lippincott Williams & Wilkins.

2.6 図表

図表は一つずつ A4 用紙に配置し, 図1, 表1などの通し番号を付ける, 図表中の文章は原則として和文とする.

図表は, 提出された原図をそのまま印刷する. 原則として, 原図がカラーでも白黒印刷になるので注意すること. 写真は図に含める. 写真は濃淡が鮮明なものとする. 図表の大きさは, 刷り上り寸法の 1.5~2 倍程度が望ましい. 図表を原稿に挿入する箇所は, 原稿の右側余白に図表番号によって明示する.

2.7 図表説明一覧

図表説明一覧をまとめて記載する.

2.8 謝辞

謝辞がある場合には, 本文の後, 参考文献の前に書く.

2.9 誓約書

投稿時に, 本研究会の定める誓約書の様式を本研究会ホームページからダウンロードして著者全員

が自筆で署名をして提出する必要がある. 以下の項目についての誓約書を添付すること: 投稿内容が倫理規定に従っていること, 著作権が適正に処理されていること, 出版物の著作権の帰属が本研究会にあること, 著者全員が原稿の内容に責任をもっていること.

3. 印刷用原稿

印刷用原稿は, 表題, 要旨, キーワード, 本文, 図表, 参考文献をまとめて, 希望するレイアウトに作成すること. なお, 本研究会ホームページ上の投稿用原稿フォーマットをダウンロードし, フォーマットにて指定した形式を参照し作成すること.

5.4. 原稿の PDF 化

投稿時には, 原稿を PDF ファイルに変換して投稿すること. PDF 化する原稿は, ① 投稿票 ② 表紙 ③ 要旨 ④ 本文 ⑤ 参考文献 ⑥ 図表および図表説明一覧 ⑧ 誓約書とし, これらを別々のファイルとして作成すること.

5. 原稿の提出

採録決定後に PDF 化しない状態の word 形式の原稿を投稿すること. また図を除いた全ての原稿を, Word 形式で保存すること. 図の電子ファイルは, JPEG, TIFF, EPS, PDF, PowerPoint などの形式が分かるようにすること. 図表を配置した ⑦ 印刷用原稿はレイアウトの参考とするが, 必ずしも指定の通りに印刷されるとは限らないので, 注意すること.